



山田ひとき

平群町議会議員 ◆ 後援会会報

発行/山田ひとき後援会
広報部
平成30年8月20日発行
〒636-0932
奈良県生駒郡平群町吉新4-3-17
TEL0745-45-4845 FAX0745-45-4727
メールアドレス hitoki@m4.ken.ne.jp



山田ひときの略歴
文化団体“やまと四季探訪”主宰

- ◇昭和36年4月16日平群町に生まれる
- ◇平群西小卒業 ◇平群中学校卒業
- ◇県立高田高等学校卒業
- ◇摂南大学 建築学科卒業
- ◇一級建築士
- ◇スキューバダイビング資格取得

- 総務建設委員会 委員
 - 議会改革特別委員会 委員
 - 下水道事業特別委員会 副委員長
 - 駅周辺整備事業特別委員会 委員長
 - 佐藤正久参院議員(ヒゲの隊長)
- 奈良県後援会平群支部長

去る4月24日付毎日新聞に『平群町赤字団体に・駅前開発で5億6千万円の支出も・赤字幅は22年度に約5億円に悪化』と大きく掲載されました。

これは議会にも報告・説明された現状であり、その他にも不確定ながら駅周事業の終結の為の保留地処分が予定の金額で売却できない場合の実売却金額との差額約2億円を債務保証しなければならぬ可能性が大きく、町財政で負担する必要があると見えます。その他、現在進められている財政健全化計画の中、土地売却収入見込み3億5千万円が売却出来なかった場合の歳入減、合わせて5億5千万円もの歳入欠陥になる不安要素もあり、合計10億5千万円の赤字財政になる可能性が出てきました。

そこで町は、当面の「赤字団体」回避の苦肉の策として、元々小学校敷地の減歩に割り充てる予定であった、駅周事業地域内の元幼稚園敷地の他、町所有の土地10,781㎡(減歩前)の内、約600㎡(減歩後)を役場不足分用地とし、それ以外を一旦、区画整理組合に約5億4千万円で買い取ってもらい、不足する小学校用地は、事業地域内の数名の土地所有者から合計約1万㎡約8億8千万円を起債(借金)



文化センター・図書館建設予定地

その事で、とりあえず直面する厳しい状況を回避させ、負担を起債(借金)として後年度へ先送りしたのです。

これは、そもそも文化センター建設にむけ慎重論の意見に耳を傾けず、無理やり動き出した事が発端であり、今となっては建設を中止すると、約10億円もの文化センター用地購入費の内、補助金約3億円、起債充

未だ厳しい平群町財政

を利用し購入し、区画整理組合に売却した土地を改めて文化センター建設用地の一部として40%の補助金と残60%のうち90%(内50%が交付税として交付)の起債を充当し、買い戻すという超ウルトラCを使っただけです。

当分約4億円もの金額全てを町単独費として一般財源から捻出する必要があり、それこそ町財政が破綻する結果を招く恐れが大きく、文化センター建設事業を中止する事さえ出来ないという状況になってしまっているのが現状です。

ちなみに、文化センター用地購入を白紙に戻すと、平群町と駅周辺整理事業組合との間での土地購入契約が不履行となり、土

地区画整理組合の理事長・岩崎万勉氏が平群町長・岩崎万勉氏を相手取り訴訟(裁判)に発展しなければならぬ可能性が出るようになってしまおうという悪循環になってしまっている状況です。

今号では、1面で「高すぎる国保税の値下げ案の議員発議での私の賛成討論」、2面では「6月議会での一般質問」を掲載しています。

この間の経緯を見てみますと、平成28・29年度の決算見込みが大きく間違っていたことが明らかになった事により、29年度の1・6倍もの増税について、**住民に対し、町がどのように責任を感じ対応するのかが大変重要な部分である**と思います。

29年度決算での累積赤字が28年度の赤字額2億5千万円のまま残る見通しであるとこれまで説明してこられました。ところが28年度末では累積赤字が1億1400万円となり見込み額とは1億4000万円の乖離、29年度は1億4000万円の単年度赤字となり**2年間で2億8000万円もの町の予測と乖離**があり、そのうえ、累積でも3000万円の赤字になる見込みが明らかになりました。

29年1月に開催された「国民健康保険税率改正のための住民説明会」の概要報告の中でも、『大幅な増税となるが、増税に至る経緯とその結果について町はどのように考えているのか』との住民の質問にたいして『平成28年度においても2億円程度の単年度赤字となる見込みです。このことから、平成29年度においてバランスの取れた収支とするため税率を上げさせていただきます。ただし、この税率改正は、平成28年度までの累積赤字を解消するものではなく、平成29年度単年度に赤字を出さない為の税率改正です。結果的に大幅な税率改正を行わなければならないことになったことは、町としては反省すべきことである。』と答えられています。それが答弁したのかは明記されていませんが、これは町長の言葉とな

6月議会 国保税引き下げ発議への賛成討論



ります。

平成20年度の国保税値上げも私は反対しましたが、その時も間違った増税であったと今も思っています。結果的にその後、数回の値下げを繰り返したことがその表れであるにも関わらず、結果、下げ過ぎた国保税となってしまう平成27年度に赤字決算になってしまった事の総括による、20年度の増税が間違いであったことも認めず反省もありません。まま突き進んでこられたように思っています。

ただ、奈良県の納付請求が今後どのように推移していくかは不透明な部分もあるという事、被保険者数が1月末現在、5028人であるのに対し、県への納付算定基準の被保険者数が5099人と大きく乖離し、一人当たりの負担割合が多くなっていることもあり、国保会計としても今後の推移を予測しがたい事は一定理解できますが、県単位化の統一料金となるのは平成36年からであり、まだ6年間ある状況の中で、仮に今値下げをしても、県の方針、県との折衝によって、今後どこかで又、値上げをしなければならぬという事態になってしまいう事もあるかもしれない。そんな中、今の国保会計の現状は1・6倍と上げ幅が大きすぎたという証である事にも関わらず、**これまで同様、間違いを認めず、突き進む姿勢ではなく、ここは間違いを認めるべき、改めるべき**であり、一定値下げを実施することが住民への説明責任であると考えます。から、発議第5号平群町国民健康保険税条例の一部を改正する条例については賛成いたします。

平成30年6月議会

一般質問 (要旨)

生駒駅発近鉄最終電車を 難波発最終と連絡を

交通の利便性をより高め、若い世代の定住を促進する一つとして私は、議員1年目の平成15年12月議会に於いてこの要望を初めて取り上げ15年。

当時、近鉄の回答は『最終電車時刻の延長は、線路の保線の問題、車両等の整備時間の問題、乗務員の労働条件等の関係で現在では非常に困難』との残念なものでした。ただ町からは『最終電車を遅くしていく事については、今後要望として挙げていきたい』との答弁を頂きました。

以後議会でこれまで6回取り上げてきましたが、明るい進展もなく経過してきました。その間にも近鉄生駒線は平成16年3月より車掌の同乗を廃止しワンマンでの運転、平成25年2月から生駒川駅・元山山口駅の駅員無人化等、経費節減を図られてきました。

現在、平成29年10月22日の台風21号に伴う大雨による三郷町での法面崩落事故の為、徐行運転に伴うダイヤ変更の結果、15分毎の運行が20分毎と電車の

便数が減少している現状となっております。

ところが、生駒発王寺行き最終電車が23時57分発と平成22年当時と比較すると21分も遅くなっており、難波駅発23時25分発の奈良行き急行に乗り換えれば生駒駅着23時48分となり、生駒発王寺行き最終の23時57分発に乗り換えられますが、その後の難波駅23時10分発の奈良行き特急、生駒駅0時00分着、難波駅23時45分発の奈良行き急行、生駒駅0時10分着、難波駅23時55分発の奈良行き最終、区間準急生駒駅0時24分着の王寺行きに乗り換えることができません。

ちなみに、現在のJR王寺駅廻りの終電の状況は、JR難波駅23時19分発奈良行き快速に乗り換えると、王寺駅に23時48分に到着し、王寺駅23時51分発生駒行きに乗り換えますが、それ以後の難波発王寺着の5本の電車では、生駒行きの連絡がありません。尚、JR難波発王寺行きの最終電車は、0時26分発で王寺着は、01時03分となっております。平成18年から変更しておられませんが、現在の交渉内容としては、平成24年9月に6自治会より提出された、竜田川駅の空調設備の整った待合室の設置やバリアフリー化等が主なものであるかもしませんが、あと少し遅く、難波駅23時45分発奈良行き急行、生駒駅0時10分着に乗り換えても



山田仁樹 議員

連絡があるよう要望頂きたい。

①現在法面崩落の事故の関係もあり、20分毎の運行で1時間に3本の運行となっているが、以前同様15分毎、1時間に4本の運行に戻る目的は？

②現在生駒発の最終電車が以前と比較し21分も遅くまで運行して頂いているが、平群町からの要望に対応して頂いた結果なのか？

観光振興・ハイカーのためのトイレ設置を！

昨年12月に平群町三郷町・斑鳩町安堵町の生駒郡4町主管による『いにしえ浪漫街道ツーデーウォーク』が開催されました。

これは、平成27年より開始され3回目となるイベントであり、当日の参加者数は、2日の『斑鳩・安堵 太子浪漫にふれるコース』が456人、3日の『三郷・平群 歴史満喫コース』が441人、2日間で延べ897人と多数の方々に参加され、その中には町外、県外からの参加者も多数おられたとの事でした。

私は、都合により2日開催の『斑鳩・安堵コース』に参加し楽しい1日を過ごさせて頂いたのですが、そのコースは、平地・市街地が多く、トイレを使用できる場所も豊富にあり、女性や高齢者にとっても安心できるコースだと感じました。

一方、『三郷・平群コース』は丘陵・山道コースという事もあり、平群町内のコースには、

③王寺行き最終電車を難波駅23時55分発の奈良行き最終の区間準急生駒駅0時24分着に乗り換えても連絡があるようにして頂きたいと願うのがいかがか？

答弁

①近鉄からは『三郷町勢野付近の法面崩壊現場の本復旧目途は決定していない。本復旧後に15分毎運行に戻すことは未確定

である』との事。今後15分毎運行に戻して頂くよう協議していく。

②これまで粘り強く協議してきた。近鉄の条件が整った為と

③今後も引き続き最終電車の延長を含む生駒駅や王寺駅の乗り継ぎ等の利便性向上に向け協議・提案をしていきたい。



昨年12月3日のツーデーウォーク三郷会場の出発式

平群駅については、駅周辺区画整理事業に伴い現在トイレの建設中ですが、以前より平群町の玄関口としてハイカーの出發、終点の待ち合わせ場所として、きれいなトイレを望む声をよく聞いていました。

おもてなしの精神からの観光振興、ハイキング道整備の観点からもトイレの整備に向けた取り組みも必要だと思えます。

①ホームページにて平群観光マップも掲載されているがトイレ位置表示も解りやすく掲載するべきだと思いがいかがか？

②ハイカーの為、中央公民館、総合体育館、人権交流センター(日、月休館)等、公共施設の休館日を含む案内看板の設置とトイレ開放がおもてなしの心だと思いがいかがか？

③第5次総合計画では観光に

ついて『人々が訪れやすいような整備を行う他、拠点間を回遊しやすくするための工夫が必要』と課題として明記されている。西山間の広域農道沿いにトイレの設置・整備が必要だと思いがいかがか？

④生駒郡4町による『街道ツ

デーウォーク』への参加を来年以降平群町だけが参加しない方向だとお聞きしたがその真意は？

答弁

①指摘頂き修正した。

②案内看板の設置は考えていない。公共施設のトイレ開放は、人権交流センターの休館日以外終日利用可能。

③トイレを設置すればハイカーの利便性の向上を図ると共に、観光振興にも繋がるものと考えているが、山間部でのトイレ設置には多額の費用が必要となる為、慎重に進める必要がある。

④費用面で、初年度は県の交付金を受けられたが、28年度以降は、4町あわせて約500万円を負担し、職員の業務負担にもなっている。有意義なイベントであることは理解しているが行政主体の手法で継続していく事に疑義を感じ、平群町は、平成30年度より参加しないと決定した。

山田ひときの指摘

観光基本計画の中では『近隣町としっかり手を握り、連動することで地域間ネットワークを活用し、ウォーキングの流入者の拡大を図る』と明記されているのにこれは施策の後退である。

観光誘致についても若干の財政出動を伴っても広域連携、連動する事が色々な情報交換が出来、まちの活性化に繋がって行くものだと思う。トイレの案内看板設置についても『おもてなし』の心が大切だと思う。